



写真-1 坂の谷橋から竹野川下流を撮影（令和4年6月）

■ 山麓に沿ってほぼまっすぐ流れている竹野川ですが……

写真-1 は、豊岡市竹野町林地内を流れる二級河川・竹野川に架かる坂の谷橋から下流方向を撮ったもので、左岸堤防上を通る道路は主要地方道 1 号日高竹野線、左の山麓に広がるのは林の集落、そして赤い屋根の背後の森は色来（いろく）神社の社叢林です。

坂の谷橋から上下流を見ると、竹野川は山麓に沿ってほぼまっすぐ流れていますが、大正時代、河川改修の一環として右の写真-2 に見える井堰付近にあった山の出っ張り（地元では「中田の出鼻」と呼ばれていた）が切り取られるまでは、出っ張りの影響で川は蛇行して流れ、その流れが集落前の堤防にぶち当たって堤防を決壊させることもしばしばあったそうです。



写真-2 坂の谷橋から竹野川上流を撮影（令和4年6月）

■ 林地区における河川改修のきっかけとなった大正7年9月の大洪水

大正時代、林地区において河川改修を行うきっかけになった洪水は、約 4km 下流の山陰本線・竹野川橋梁においてラティス桁増設の原因となった洪水と同じ、大正 7（1918）年 9 月の大洪水です。（『ひょうご水百景』No.168 参照）

この洪水は西日本を中心とした地域に大水害をもたらしましたが、特に兵庫県の但馬地方や香川県、島根県に大きな被害が発生しました。この洪水や大正 10（1921）年の西日本を中心とした大水害を契機として治水政策を再検討し、同年に第二次治水計画が策定されています。

因みに、お隣・鳥取県の鳥取市内を流れる千代川（せんだいがわ）の既往最大洪水も、鳥取平野が水没するほどの被害を受けた大正 7（1918）年 9 月の洪水で、千代川流域では 48 時間で 204mm の雨が降り、行徳地点（基準地点）では既往最大流量である約 6,400m³/s を記録したそうです。

■ 大部孫太夫、大正 7 年 9 月の大洪水を機に川替えを決意

竹野川の中流部に中竹野村※¹（現・豊岡市竹野町）の林地区があります。この場所は、図-1 のように中田の山が西側に約 11 間（≒20m）突出していたことから、竹野川の流れが「中田の出鼻」と呼ばれた突出部にぶつかり、北西に撥（は）ねて集落近くに水衝部を形成、そこは深く青々とした淵になっていて、「中ノ淵」と呼ばれていました。洪水が起きると集落前の堤防が決壊し田畑が荒れることがしばしばあり、村民は困窮していました。

このような状況を見ていた中竹野村村長の大部孫太夫※²（だいふまごだゆう）は、洪水から田畑を守るためには、「中田の出鼻」をくじく、ではなく切り取り、川をまっすぐに付け替える必要があると常々思っていました。しかし、大正期の地元の力ではどうにもならず悔しい思いを抱いていました。

そのような中、大正 7（1918）年 9 月 14 日に台風による未曾有の大洪水が発生し、竹野川は氾濫して林地区の田畑には大量の土砂が流入しました。この惨状を見た孫太夫は、すでに村長の職にはありませんでしたが、一村民としてこれを機に「中田の出鼻」の切り取りを決意します。

村人とともに有吉忠一第 15 代兵庫県知事にこの工事を県費で施工するよう懇願します。工事費は、当時の金額で 16 万円、1 日の人夫賃が 60 銭の時代です。しかし、「中田の出鼻」の切り取りには岩盤掘削を伴うため施工できる業者は近在になく、県外の鴻池組が請け負うこととなりました。

「中田の出鼻」の切り取りは幸いにも思ったより岩盤が深く、上部 3 割は土でした。掘削土は中ノ淵の埋め立てに使用し、岩盤掘削は約 10 日間で終わりました。新たに河川敷とするために潰れる耕地はそれほど大きくはなかったのですが、左岸の堤防を築造するのに約 3 年の歳月がかかっています。地元の人たちは老若男女を問わずこの工事に従事しました。土砂の運搬はトロッコで行われ、その運転はすべて女子が担当、男子はツルハシ・スコップで力仕事を担当しました。堤防の根敷（敷幅）は 8 間（≒16m）、天端幅は 2 間（≒4m）、この堤防が 8 丁（≒576m）にわたって続くので、その景観は見事だったとか。新しい川の幅は 20 間（≒40m）で、『竹野町史』によると少々の洪水では堤防は決壊しない構造になっているとのこと。

ではどのような構造になっているのか気になりますが、堤防は草で覆われていて護岸の有無は確認できませんでした。ただ堤防は堤内地盤に比べてかなり高く、国土地理院の地形図から作成した横断面図（図-2 参照）からもわかるように、竹野川の河床と田面高がほぼ同じで、“天井川”に近い状態です。「少々の洪水では決壊しない」ほどの河積があるようですが、内水問題が気になりますし、万が一堤防が決壊すると一面が湖になってしまいます。

また、「中田の出鼻」跡がどこなのか気になって現地を歩いてみましたが、樹木が繁茂して地形を隠してしまっているもので、よくわかりませんでした。豊岡市竹野振興局地域振興課にメールで問い合わせると、「正確な位置は分かりませんが、小字として「仲田」という場所があるので、概ねその辺りではないでしょうか」と小字名を記した空中写真を添付した回答をいただきました。その上で小字の位置と地形図を見比べてみると、ちょうど井堰付近の山の等高線が切土法面のように見えるので、「中田の出鼻」は井堰の右岸部付近にあったと思われます。（次頁の図-3 参照）



図-1 林耕地川替え以前の図



図-2 井堰上流約 100m 地点の横断面図

この工事に併せて行われた耕地整理により大部分が一反田となり、農作業も効率よく行われるようになりました。

林地区は、度重なる洪水のために屋敷は山腹へ上がり平地に屋敷がない状態でしたが、耕地に流れ込んだ土砂を利用して旧県道の両側に宅地造成が行われました。これらは無利息資金で行われましたが、年々償還していかなければならなかったため、村人は万事倅約に努めたそうです。

ところで、村人たちがこの工事を県費で施工するよう知事に懇願した結果はどうなったのでしょうか。『竹野町史』にはその点が明確には記されていませんが、『奥竹野村勢調査書』には、「復旧については、土木は県費補助 10 万 1 千余円を仰ぎ、道路・橋梁・堤防・堰堤・用水路の復旧を大正 10 (1921) 年 3 月末終了し、補助以外は関係者にて応急の施設をし、耕地は無利息資金 5 万 3 千円(中竹野村は 131,500 円)を仰ぎ、個人に貸付し……」と記されているので、中竹野村も概ね同様の措置が講じられたものと思われます。

また、災害復旧予算に対する県費補助率は 1 割にも満たず、残りの地元負担分は村債を起こしたそうです。中竹野村は起債理由書で「その日の糊口を凌ぐに窮したるの情態にて到底その余力を認めず」と訴えています。

なお、貸付金の返済は 5 年据置でしたが引き続き水害のため措置延長を申請、結局完済に 30 年以上かかったそうです。

※1 中竹野村：明治 22 (1889) 年 4 月 1 日、町村制の施行により、美含(みくみ)郡林村・下塚村・東大谷村・金原村・轟村・小丸村・鬼神谷(おじんだに)村・須谷村・芦谷村・阿金谷(あこんだに)村・和田村・羽入(はにゅう)村・松本村・草飼村の区域をもって中竹野村が発足。明治 29 (1896) 年 4 月 1 日、所属郡が城崎郡に変更。昭和 30 (1955) 年 3 月 3 日、三椒村(さんしょうむら)・竹野村・奥竹野村と合併し、改めて竹野村が発足。同日中竹野村廃止。昭和 32 (1957) 年 4 月 1 日、竹野村が町制施行して竹野町となる。平成 17 (2005) 年 4 月 1 日、豊岡市・城崎町・日高町・出石郡出石町・但東町と合併し、改めて豊岡市が発足。同日竹野町廃止。

※2 大部孫太夫：明治 8 (1875) 年、美含郡林村(現・豊岡市竹野町林)の素封家の長男として生まれる。豊岡中学校(現・高校)を卒業後、地元のために尽力し、請われて二度中竹野村長を務めた。1 回目明治 40 (1907) 年から 41 (1908) 年、2 回目明治 45 (1912) 年から大正 4 (1915) 年である。昭和 14 (1939) 年 10 月 30 日没、享年 65。

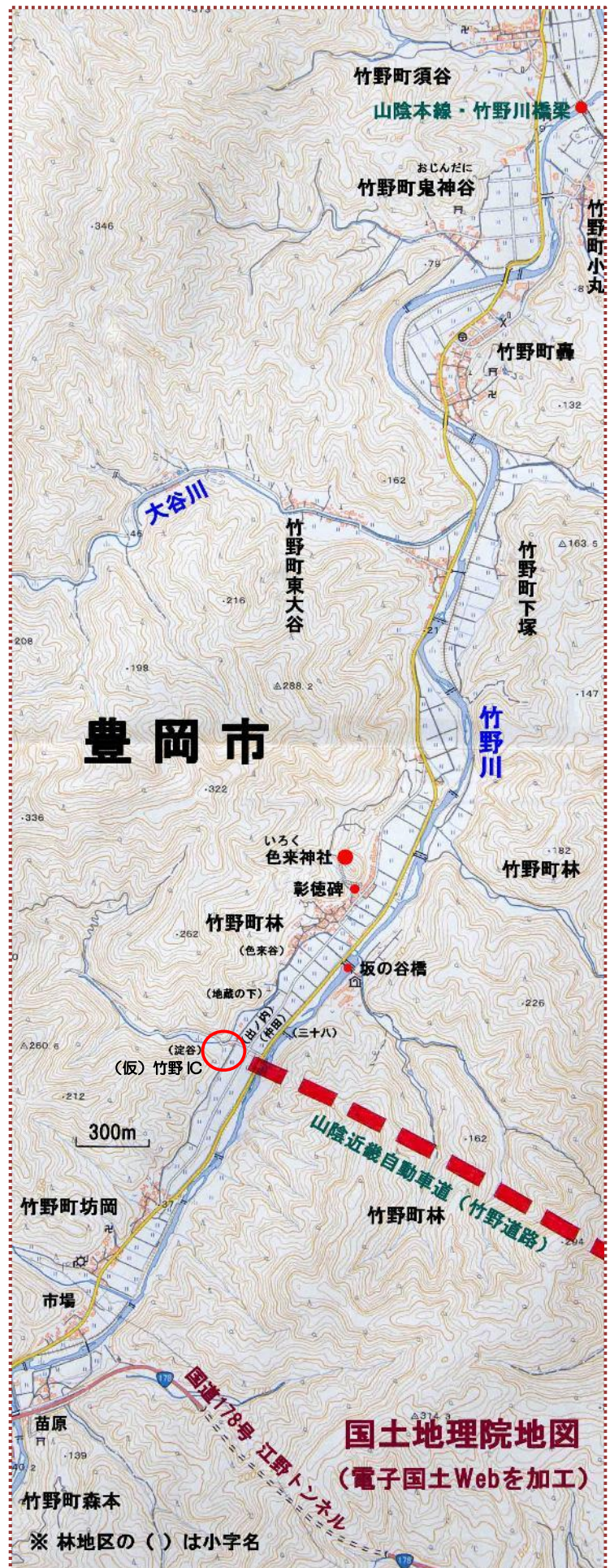


図-3 川替えが行われた竹野川周辺の地図

■ 色来神社の鳥居横に大部孫太夫の彰徳碑

大部孫太夫は、『但馬ゆかりの 50 人』に取り上げられています。筆者はラティス桁の竹野川橋梁を調べる際に、『竹野町史・通史編』を読む中で初めて孫太夫を知りました。

竹野川改修に尽力した孫太夫についてネットで調べましたが、(公財)兵庫県人権啓発協会 HP などにわずかながら情報があるだけでした。いずれも「差別解消に生涯をささげる」といった内容(これはこれで立派な業績です)で、「竹野川の改修に尽力」といった功績は出てきません。

また、竹野川改修に併せて耕地整理を行っていることから、『兵庫の土地改良史』を調べてみましたが、残念ながら林地区で行われた耕地整理そのものが記載されていませんでした。

昭和 35 (1960) 年 10 月、孫太夫の 21 回忌に林区民一同の手によって彰徳碑が色来神社の麓にある鳥居の横に建立されています。

現状、孫太夫の治水に関する功績を伝えるものは、彰徳碑と『竹野町史』だけのようです。



写真-3 大部孫太夫
(『但馬ゆかりの 50 人』から引用)

彰徳碑に刻まれている「晩年破産の厄に会ったが」というのは、「同和問題に対する意識が乏しかった時代、同土を集めて私財を投入、わら加工の対策事業を起こしたが、世界恐慌の影響などで失敗した」ことを指しているようです。

「孫太夫」は、彰徳碑に記されているように大部家に代々受け継がれてきた名(名跡)で、自身の幼名は「潔」です。

ところで、『竹野郷外史』によると、「弘化(1845~1848)・嘉永(1848~1854)の頃、庄屋大部孫太夫は、林の井手以北の川を東山麓に移した」とあり、何代か前の孫太夫も竹野川改修に関わっていたようです。



写真-4 色来神社鳥居と、横に建つ彰徳碑と灯籠



写真-5 大部孫太夫の彰徳碑

彰 徳 碑

大部孫太夫君 君は明治八年六月十五日兵庫県城崎郡中竹野村林の旧庄屋に生る 幼名潔 長じて家代々の名を嗣ぐ 資性正直 権貴(ごんき)を恐れず 卑賤を軽んぜず私を忘れて世と人に奉仕す 明治四十年より四十一年 同四十五年より大正四年推されて村長となること二回 退職後も念頭村治を忘れず 中でも大正七年九月の洪水に際して竹野川の氾濫が一朝にして林部落を荒廃に委ぬるを見るや一村民として挺身県当局を動かす断然根本的改修を加え河川変更耕地整理を決定し部落民はこれによって年々の水害を免れ安泰を樂しむを得た 君は大正十一年病を得 晩年破産の厄に会ったが この不幸は却って益々君の捨身懺悔の急行を徹底させた 昭和十四年十月三十日没 享年六十五 林区一同碑を建て永く君の遺徳と恩沢を記念する 昭和三十五年十月 友人安倍能成 文並書

彰徳碑の碑文

■ モノローグ

P.1の写真-26は、坂の谷橋から上流方向を撮ったものですが、約380m上流に見える井堰のさらに上流約150m付近を山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）が通る予定です（図-3参照）。県道との交差部には（仮）竹野ICが設置されます。

山陰近畿自動車道と北近畿豊岡自動車道が接続する（仮称）豊岡北JCT（豊岡市新堂）―（仮称）竹野IC（豊岡市竹野町林）間の4.9kmが、「道路改築事業・一般国道178号竹野道路」として令和3（2021）年度に事業化され、調査・設計が進められています。

ところで、梅雨明け翌日の暑い日に林の集落内をウロウロしていると、林公会堂そばの消防倉庫の壁に掲示されている「中竹野みどころマップ」が目に入り、見ると見どころのひとつに「旧大部邸日本庭園」というのがありました。

通りがかりの方に場所を尋ねると、「公会堂の右手の道を上がった所にあるけど、誰も住んでいないので荒れていますよ」とのこと。とりあえず行ってみると、確かに草ぼうぼうで庭園らしきものはなく家屋（廃屋）もかなり朽ちていましたが、素封家の家らしく立派な門構えでした。



図-6 「中竹野みどころマップ」

ミント

シソ科ハッカ属の総称。ユーラシア大陸原産。名称は、ギリシャ神話で植物に変身したニンフであるメンテーに由来する。和名はハッカ（薄荷）だが、この名はミントの一種であるニホンハッカを意味することもある。繁殖力が旺盛で、地植えすると駆除が容易ではなくなり、雑草扱いされることもある。全草に精油が含まれ、種によって香りの成分が異なるが、葉は爽快感のあるスッキリとした香りがあるのが特徴である。ハーブとして世界中で広く使われており、主成分メントールの清涼感ある香りが特徴のペパーミントと、精油成分カルボンの甘い香りのスペアミントが代表的な種で、主に香辛料野菜として広く利用されている。右の写真-7は、旧大部邸の門前に生えていたミント。



図-7 旧大部邸に生えていたミント

【参考資料】

- 1 『竹野町史・通史編』 竹野町教育委員会 平成2年3月
- 2 『但馬ゆかりの50人』 神戸新聞社編 平成17年11月
- 3 『大正・昭和戦前時代の水管理技術』 末次忠司・内田直希 水利科学 No.361 平成30年
- 4 『中国の一級河川～千代川』 国土交通省・水管理国土保全 HP
https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kasen/jiten/nihon_kawa/0709_sendai/0709_sendai_03.html
- 5 『投資事業評価調査（新規）～道路改築事業 一般国道178号竹野道路』 兵庫県 HP
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks08/documents/r02-s-01-r178-takeno.pdf>
- 6 『竹野郷外史』 竹野郷土研究会 昭和53年2月
- 7 『中竹野村、竹野町、ミント』 フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

※発行：令和5（2023）年11月 『ひょうご水百景』 No.184

改訂：令和8（2026）年 7月 『ひょうご水百景』 No.184